

地域社会との共存共栄

考え方・方針

IHIグループは、社会の期待に応えることを企業の社会的責任と考え、社会貢献活動に取り組んでいます。

IHIグループの事業拠点や建設現場などの地域において取り組むべき社会貢献活動については、事業やSDGsとの関連性を踏まえて重点課題を設定しています。

●社会貢献活動の重点課題

重点課題	事業との関連性	関連するSDGs
地域社会との共生	地域社会と良好な関係を構築し維持することは、IHIグループが円滑に事業展開するために不可欠です。	11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナシップで目標を達成しよう
次世代人財の育成	ものづくりを担う人財の育成を推進すること、また、将来の科学技術分野の研究を支援することは、将来の産業の基盤を豊かにし、IHIグループの認知度の向上と事業継続に不可欠です。	4 質の高い教育をみんなに 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
環境の保全	生態系の維持や異常な気候変動の対策に寄与する活動を支援して、自然の恵みを育て健全な世の中を維持していくことは、IHIグループの事業継続に不可欠であり、従業員の環境問題への理解促進につながります。	13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう

目標・実績

IHIグループは、社会貢献活動の目標支出額を当期利益の1%を目安としています。
IHIグループの2022年度社会貢献活動の支出総額は、489百万円(当期利益の0.87%)でした。

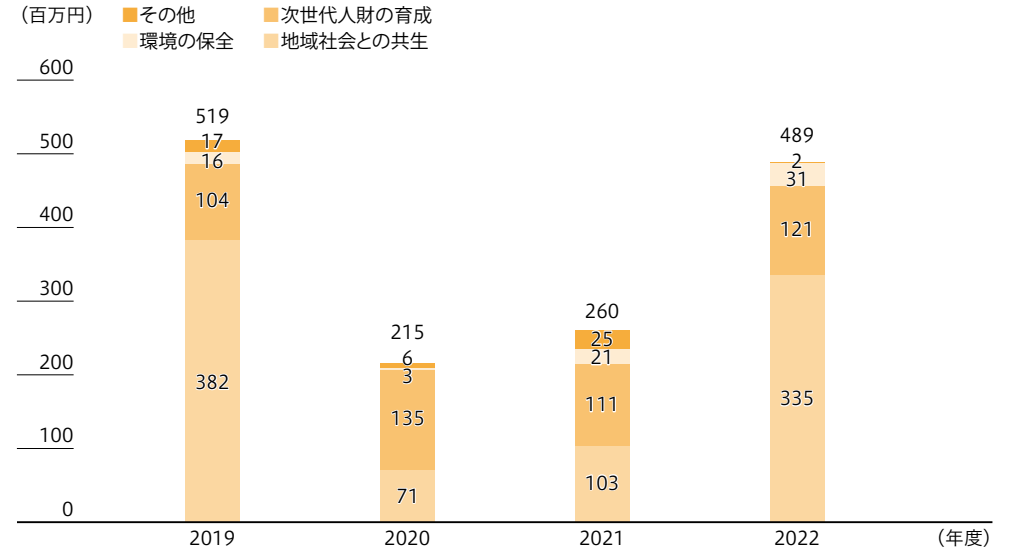
●社会貢献活動費の費目別内訳

(単位：百万円、対象：IHIおよび連結子会社)

項目	2020年度	2021年度	2022年度	
費目別内訳	現金寄付	156	120	251
	時間寄付	40	87	94
	現物寄付および敷地提供費	19	53	144
参考	地域社会関連の団体会費	14	13	15
	運営経費	117	110	106

●社会貢献活動費

(対象：IHIおよび連結子会社)



●活動実績

(対象：IHIおよび連結子会社)

重点課題	指標	2020年度	2021年度	2022年度
地域社会との共生	事業の利益※ 主催イベントの来場者数	632名	645名	1,535名
	社会/環境の利益※ 地域社会への支出額	71百万円	103百万円	335百万円
次世代人財の育成	事業の利益※ 理科(ものづくり)教室の参加者数	1,356名	5,297名	6,468名
	社会/環境の利益※			
環境の保全	事業の利益※ 主催イベントの参加者数	60名	254名	156名
	社会/環境の利益※ 環境保全面積	12,652m ²	12,652m ²	112m ²

※上記指標の「事業の利益」および「社会/環境の利益」とは、RobecoSAMが定義している指標であり、それぞれ以下のとおりです。

事業の利益：製品の開発、ブランド向上、人財開発など事業上の利益に直接関わるもの
社会/環境の利益：持続可能な開発目標(SDGs)など、社会上・環境上の利益と連携するもの

地域社会との共存共栄

取り組み

2022年度の主な活動内容

IHIグループは2022年度、新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら、社会貢献活動の重点課題としている「地域社会との共生」「次世代人材の育成」および「環境の保全」に取り組みました。各事業拠点において、特徴のあるさまざまな活動を行うことができました。

また、新型コロナウイルス感染症対策として、IHIグループ事業拠点近隣の自治体や医療機関に対して、IHIグループ会社で開発した体温スクリーニング装置やオゾン脱臭殺菌装置を寄贈しました。

著しい間接的な経済的インパクト(国際協力と教育支援)

IHIグループは、2025年に開催される大阪・関西万博の会場建設への寄付金や、2023年2月に発生したトルコ南部を震源とする地震への義援金の拠出を行いました。

また、事業拠点近隣の学校や公共施設を中心に、48カ所で6,624名を対象に、STEAM教育や環境教育の出前授業を実施しました。

行政やNGOと協働して取り組んでいる

環境保全活動(生物多様性の保護および啓発活動)

IHIグループは事業拠点近隣の小学生を対象に、「森や土のはたらき」の出前授業を実施しています。

この出前授業はお茶の水女子大学とIHIグループが共同開発したもので、学校の校庭とIHIグループの事業所の緑地で土壌を採取し、土に肉眼では見えないいろいろな生物が生息していることを発見し、理解してもらいます。

2022年度は、相馬事業所、横浜事業所、鹿児島事務所の

近隣の5つの学校や公共施設で、計156名を対象に出前授業を実施しました。

IHIグループは、持続可能な社会を実現するため、これからも豊かな自然を守り生態系を維持する大切さを伝え、環境問題への理解促進につながる出前授業を継続して開催していきます。

地域社会との共生

相馬野馬追への参加

IHI相馬事業所は、2005年から相馬野馬追に参加しています。東北の夏を彩る相馬地方伝統の野馬追行事は市民にもご神事として大切にされており、開催当日は相馬市をあげて野馬追一色となります。

2022年7月、相馬野馬追は3年ぶりに通常開催されました。IHI相馬事業所からは、相馬事業所長がおみこし守護役の騎馬武者として参加しました。また、約70名のIHIグループ従業員が、中村神社のおみこし、榊箱、旗持ち、御信心を担当しました。堂々とした若衆の姿に、中村神社や氏子の皆さまから賛辞の言葉をいただきました。

IHI相馬事業所は、今後とも地域社会への貢献の一環として、相馬野馬追に継続して参加していきます。

日本車いすバスケットボール連盟への支援

IHIグループは、2015年度から日本車いすバスケットボール連盟とオフィシャルスポンサー契約を結び、同連盟を支援しています。車いすバスケットボールの楽しさを広く知ってもらうため、各地で車いすバスケットボールの体験会を開催しています。

2022年度は、10月に群馬県富岡市内の体育館、11月に新潟県新潟市内の体育館でイベントを開催し、地域住民

の方々やIHIグループ従業員・家族などに参加いただき、地域リーグ選手によるエキシビジョンマッチや車いすでのゲーム体験会などを実施しました。富岡では約150名、新潟では約100名に参加いただき、新潟市北区の郷土芸能である松浜太鼓なども披露され、大いに盛り上がりました。参加者からは、さまざまな感想も寄せられました。

IHIグループは、これからも車いすバスケットボールの普及活動を通じて、地域社会との共生を進めていきます。

相生ペーロン100周年への参画

IHI相生事業所は、2022年に相生ペーロンが100周年を迎えたことから、「ペーロン伝来100周年記念特別展」に優勝旗などを提供しました。

相生ペーロンは、1922年に播磨船渠(のちの播磨造船所)の長崎出身の従業員によって相生へ伝えられたものです。2022年5月、2020年以降コロナ禍が続き中止されていた相生ペーロン祭が3年ぶりに行われ、県内外より39チームが参加しました。IHI相生事業所からは6チームが参加して、相生湾に銅鑼と太鼓のにぎやかな音が響き渡りました。

IHI相生事業所は、これからも相生ペーロン祭に参加し、地域の伝統文化を大切にして、地域社会を盛り上げていきます。

地域社会との共存共栄

次世代人財の育成

地元小学生にSDGs教育を実施

IHIは、福島県相馬市と共同で運営している「そうまIHIグリーンエネルギーセンター(SIGC)」で、循環型地域社会づくりの実証事業を行っています。これは、再生可能エネルギーの地産地消と、地域振興・発展に寄与することを目指した活動です。

2022年度は、地元相馬市の小学生を招待し、IHIの事業やSIGCを中心とした脱炭素への取り組みをSDGsと関連付けながら紹介しました。実際に再生可能エネルギーで稼働している設備の見学や、グリーン水素で動くラジコンを操作することで、IHIグループのSDGsへの取り組みを身近に感じてもらうことができました。

IHIは、これからも次世代人財の育成に資することを目的に、学びの場を提供していきます。

小惑星探査機「はやぶさ2」帰還カプセル展示会の開催

IHIグループは、2022年10月、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構より、小惑星探査機「はやぶさ2」帰還カプセルを借用し、近隣の小学校・中学校向けの課外授業として、IHI本社にて展示会を開催しました。

社会貢献活動の一環として行われ、豊洲地区近隣の小中学生、IHI従業員・家族を中心に約1,200名が来場しました。IHIグループの技術が詰まった「はやぶさ2」帰還カプセルを見学いただくことで、宇宙の謎を探求すること、科学技術を追求すること、チームワークで挑戦することの楽しさを実感していただく機会となりました。

見学した小中学生から、「リュウグウの砂を見て宇宙のすごさに感動しました」「もっとはやぶさ2のことを知りたい」などの感想をいただきました。

IHIグループは、将来のものづくりを担う人財の育成に、これからも積極的に取り組んでいきます。

子どもたちの夢をかなえるための学び

IHIグループは、宇宙を舞台に、子どもたちが地球人という意識や生きる力を育むための学びの座と場を創りたいと考えています。

そのために、瑞穂工場近隣の学校を含む国内外の小中高等学校と、総合・国語・理科・道徳の授業を通じた「星に届ける作品づくり(宇宙連句、宇宙俳句など)」を行っています。子どもたちの作品は、航空宇宙機器(民間航空機、ロケット、宇宙船、国際宇宙ステーション)を活用して、宙(そら)に輝く星に届けています。この22年間で約7万名が参加しました。

2022年度は、7つの国や地域31校約5千名と作品づくり(オンライン)を進めました。子どもたちが国や地域を超えてお互いを励まし合うための宇宙連句づくりを継続・進化させています。

また、世代を超えた対話の試みとして、大人(IHI経営トップを含む)の宇宙連句づくりへの参加、DXの推進(時差を超えるためのビデオレター)、閉校する学校の思い出づくりなどを行いました。作品の打ち上げは2023年夏を予定しています。

IHIグループは、これからも子どもたちの夢をかなえるための学びを小中高等学校と共創していきます。

地域社会との共存共栄

環境の保全

「ニコニコなでしこ活動」の実施

ニコ精密機器では、2016年度より女性活躍推進を目的に「ニコニコなでしこ活動」を実施しています。

その活動の一つとして、2019年度からは社会貢献活動を行っており、2022年度で4年目を迎えました。活動内容は、4班に分かれてベルマーク、古切手、PETボトル、古着を収集します。古切手は南魚沼市社会福祉協会へ寄付し、PETボトルは世界中の子どもへのポリオワクチン支援として使い、古着は裁断して作業現場のウエスへ再利用しています。

2022年度は、従業員だけでなく、IHIグループ会社やビジネスパートナーの協力やアドバイスをいただきました。これまでの経験を生かして作業方法を工夫しながら、年間回収目標に向けて活動しました。

ニコ精密機器では、環境保全の一環として、これからも身近で使用した物品を再利用して、世の中の役に立つことができる活動を継続していきます。

海浜清掃活動への参加

瀬戸内海沿岸の自治体、国土交通省地方機関で構成する瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会は、海浜の清掃活動を通じて美しい瀬戸内を守っていくために「リフレッシュ瀬戸内」を開催しています。

IHI相生事業所では、この「リフレッシュ瀬戸内」に毎年積極的に参加しています。

2022年度は、約75名が参加し、事業所に隣接する岸壁付近のゴミを回収するなど瀬戸内地域の環境改善に寄与しました。

IHI相生事業所では、今後も引き続き、自治体などと協働した環境の保全活動に取り組んでいきます。